

令和2年度第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議

□ 日 時

令和2年6月12日(金) 13:30~16:30

□ 会 場

郡山合同庁舎仮設庁舎2階 第1会議室

福島県教育委員会では、「本県の家庭教育推進上の大きな課題である『親の学び』を支援する」ことを目的として、平成26年度より「地域でつながる家庭教育応援事業」を実施しております。



事業計画の一つ目に「家庭教育応援プロジェクト」を位置付け、「福島県地域家庭教育推進協議会（年2回）」「地域家庭教育推進ブロック会議（各地区年2回）」「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」を実施しています。

二つ目として「家庭教育応援リーダー育成事業」を位置付け、「家庭教育支援者全県研修」「家庭教育支援者地区別研修」により全県、及び各域内の家庭教育支援者の実践力向上を図っています。

県中教育事務所では、域内の家庭教育の現状を把握し、課題を整理した上で各地区PTA連合会、地域代表、企業代表等との連携により、各家庭における実践へとつなげるため、「地域家庭教育推進県中ブロック会議」を年2回開催しております。PTA連合代表、学校支援者、地域の子どもたちに関わっている諸団体代表、家庭教育支援者、企業の代表者等「推進委員」による協議を通して、学校・家庭・地域が連携し、家庭教育の推進、子どもたちの生活習慣の改善、課題解決に向けての実践的な活動がなされるよう取り組んでいます。

今年度の1回目となる本会議では、社会福祉法人太田福祉記念会常務理事 佐々木俊仁氏を講師に迎え、講話「子ども朝ごはん提供事業について」をお話しいただきました。後半は、県中域内の家庭教育の現状と抱えている課題について活発な情報交換を行ったあと、「親子の自己有用感を高める家庭教育の支援のあり方」というテーマで全体で協議を行いました。

【出席者】

- 県中ブロック会議 アドバイザー
- 郡山女子大学短期大学部地域創成学科教授
- 須賀川市家庭教育インストラクター
- 郡山青年会議所理事 青少年育成委員会委員長
- 郡山市主任児童委員
- 須賀川市立中学校 学校評議員
- 郡山警察署生活安全課少年係
- 県中児童相談所 主任児童福祉司
- 田村市保健福祉部こども未来課 課長補佐兼子育て応援係長
- 郡山市PTA連合会役員（郡山市立開成小学校PTA会長）
- 岩瀬地区PTA連合会 会長（須賀川市立第二小学校PTA会長）
- 石川郡連合PTA 会長（平田村立ひらた清風中学校PTA会長）
- 田村地方PTA連合会 会長（小野町立小野中学校PTA会長）

□ 日 程

時 間	内 容	
13:30～	開 会 行 事	○ 主催者あいさつ ○ 所員自己紹介 ○ 日程説明
13:45～	経 緯 説 明 等	○ これまでの経緯説明と今年度の取組について
14:05～	講 話	○ 「子ども朝ごはん提供事業について」 社会福祉法人太田福祉記念会常務理事 佐々木俊仁 氏
14:45～	休 憩	
14:50～	協 議	○ 「親子の自己有用感を高めるための家庭教育の支援について」
16:15～	提 案	○ 「家庭教育応援プロジェクト（県中版）」について
16:20	閉 会 行 事	○ 御礼・諸連絡

講話 「子ども朝ごはん提供事業について」

社会福祉法人太田福祉記念会常務理事 佐々木俊仁 氏

○ 社会福祉法人太田福祉記念会の運営について

昭和53年に社会福祉法人太田福祉記念会の設立が認可される。現在、特別養護老人ホームが2施設、ケアハウスを1施設、在宅施設などを含めると9事業所を運営している。

平成29年より地域貢献事業として「子ども朝ごはん提供事業」を開始する。平成30年には生活困窮世帯の子どもを対象とした学習支援事業を開始する。



○ 「子ども朝ごはん提供事業」のしくみについて

【太田福祉記念会 佐々木常務】

熱海地区の小中学生を対象として、何らかの理由で朝ごはんを食べることができない子どもたちに朝ごはんを提供している。1食100円として希望者に提供をしている。

事前登録制としており、中学生は太田玉川デイサービスセンターで食べ、小学生は食事をお弁当にして小学校へ運び学校で食べる。登録の際にはアレルギーの調査をしっかりと行い、安全管理は徹底している。

○ 取組の必要性について

太田福祉記念会の理念として「地域福祉の向上」を掲げている。地域のニーズ調査を行ったところ、朝ごはんを食べないで登校する子どもがおり、しっかり朝ごはんを食べて生活リズムを整えさせたいとの声があった。そのような地域の声に応え、家庭機能を補完する地域のセーフティネットづくりにチャレンジする意味で、「子ども朝ごはん提供事業」として、この事業を立ち上げることとなった。

事業を立ち上げるにあたって、地域福祉の向上へ目を向ける職員育成も視野に職員を募集し、多くの賛同者を得て事業をスタートさせた。事業への参画は職員のやりがい醸成と、業務に対するモチベーションの向上にもつながった。

○ これからの方向性について

子どもの生活環境をよく知っているNPOと連携して、子どもたちの学習意欲を高め、貧困の世代間連鎖を絶つ活動を進めていきたい。今年度は、須賀川市内の子どもたちを対象に太田福祉記念会で活動の場と昼食を提供し、異年齢集団での交流や体験活動を通して学習習慣の定着や食育等の支援を実践していきたい。

協議 「親子の自己有用感を高めるための家庭教育の支援について」

議長 県中ブロック会議アドバイザー 滝田 良子 氏

1 自己紹介及び家庭教育の現状と課題について情報交換

- 地域や学校、各機関等における家庭教育の現状と課題
- 日頃から感じたり、考えたりしていること

<推進委員の情報交換>

- ・ 新型コロナウイルス感染防止に向けて、学校が家庭訪問し見守りの強化をしていただいていることに感謝している。
- ・ 学校での対応や地域での支援に感謝している。
- ・ 各種活動が中止になるなどPTAも同様である。感染防止に努めながら今できるPTA活動は何かを考えている。
- ・ 台風災害、新型コロナウイルス感染防止のための休業で、ゲーム依存や肥満、SNS等の課題が増加している。
- ・ 学校ではいじめの防止や不登校の解消、あいさつの実践など、少しずつ成果が上がってきている。
- ・ 児童虐待、貧困等、行政側はもっている情報をできるだけ地域に提供して、連携して諸問題に対応したい。
- ・ 自宅にいる時間が多いためゲームなどに依存しがちなため、ノーメディアデーは推進したい。
- ・ 万引きや補導、深夜徘徊、喫煙など少年の非行の実態は減少している。
- ・ 台風や新型コロナウイルス感染防止で生活が大きく変化したが、少しずつ元に戻そうとすることも必要だと思う。



【推進委員の情報交換】

2 親子の自己有用感を高めるための家庭教育の支援について

<アドバイザーから>

- 都市化や少子化・核家族化により、子どもと社会の関わりが希薄になっている。また、情報化によりインターネット上での交流が増える一方で、人と関わる機会が減少する傾向にある。

インターネット等の増加に伴い、直接的なふれあいが減少しているため子どもの社会性が希薄になっている。国際比較調査の一部に、外国の子どもとの比較で日本の子どもは自信がなくマイナスイメージが強い。他者と比較し自分を客観的に見ることができず、自分自身を価値がない人間と思う児童が増えてきている。この現状から、①自分には良いところがある②今の自分が好き③自分自身に満足しているなど親子の自己有用感を高める家庭教育への支援が必要なのではないか。



【滝田アドバイザーによる全体協議】

<推進委員の意見交換>

- ・ 摂食障害を煩っている子どもは自己肯定感が低い。体重は数字で減ったことが分かるのでもっとダイエットしようと無理な食事を繰り返す。自分に自信を持つために、価値観の多様化が必要がある。
- ・ 小さいときの「できる」という体験や自分の長所を伝える体験は自分自身に自信を持つためにとても大切だと思う。
- ・ 自己成長するために自己判断する経験や達成感を得る体験を通して「やり抜く力」を身につけることが必要ではないか。
- ・ 子ども会の加入者が減少して、地域人材の育成に対する人材が不足している。地域の団体がスムーズに運営できず、地域の絆が希薄化している。
- ・ メディアを通せば話せる子どもが増えている。メディアが広がれば広がるほど人付き合いは減少する。逆を言えば、メディアとの関わりが減れば人付き合いがもっと増えるのではないか。メディアの普及が社会問題を引き起こしている。
- ・ 親子のコミュニケーションが大切である。子どもは短所は言えるが長所がなかなか言えない。親は子どもの長所をしっかりと把握しているので、子どもの長所を伝えてあげる機会を設けてはどうか。
- ・ 家庭に居場所がない子どもはネットの中に居場所を求める。ネットでは聞いてもらえるし良い評価をしてもらえる。
- ・ ほめることが一番大切である。しかし、ほめられて育ってきた親が少ない。そうになると、親自身がほめ方が分からない。場合によっては、子どもと親の間に入って、子どもの良さや親の思いを伝える仲介的な支援をしている。
- ・ 子どもの生活の場に、やりきる体験や成功する体験の場を設定し、子どもが満足する場を多くもてば自己有用感が高まるのではないか。
- ・ 学校への不満を持っている保護者に対しては、PTAという組織を活用して冷静に適切な対応をしたい。
- ・ 情報量の多さに今の子どもたちは振り回される。ノーメディアデーを活用してアナログな体験（外遊びや親子でのふれあいなど）ができる時間を確保したい。
- ・ 少子化や過疎化で統廃合が進んでいる。スクールバスでの登下校のため子どもたちは地域とふれあう機会がどんどん少なくなってきた。
- ・ ノーメディアデーに取り組んでいる。親もメディアやゲームに関して知識を持ち、対応ができるようにしたい。
- ・ 子どもとの会話を増やしている。家族の役割を大切に、親と子の関わりをもちたい。PTAも同様で、会長として役員がやりがいを感じる事ができるPTA活動を目指したい。



【推進委員による意見交換】

3 まとめ

<アドバイザーより>

- 自己有用感を持ってない親がたくさんいる。その背景には、親自身が今までにほめたりほめられたりする経験がないことが考えられる。親自身も「ほめる技術」をもっていないから子どもをほめて育てる子育てが難しいのではないか。
- 家族の関わりや大人同士の関わりの中で、相手を認め合ったりがんばった姿をほめた

りする経験をたくさん持ちたい。そうすることで親が自分を肯定的に見ることができるようになり自分を好きになることができるのではないかな。

- 家庭教育推進委員として、「互いの良さを伝える」場や環境をつくり、「ほめる・認める」活動を支援していくことで、親の自己有用感を高めていきたい。
- 今回の新型コロナウイルス感染防止に向けて、親も非常によくがんばっている。その姿を学校現場やPTAの活動の中でぜひほめてほしい。親自身が認められ、ほめられれば、「ほめられた経験」を親は子どもへ返していくはずである。「子は親の鏡」と言われる。今年度は「ほめるコミュニケーション」を通して、自己有用感を高めるための具体的な方策として「お互いの良さを伝え合う活動」など、親子の自己有用感を高め、親子のコミュニケーションを深められるように支援していきたいと思う。

提案・その他「家庭教育プロジェクト（県中版）について」

「コミュニケーション！」

～「家族で」「地域で」「学校で」～

『我が家のアクション』できることから取り組もう！

Action1 子どもをほめよう！自分をほめよう！

- ・ ほめることは大事な子育てツールです。
- ・ たくさんほめてあげましょう。そして、がんばる自分もほめてあげましょう。
- ・ ありがたいの気持ちを言葉で伝えましょう。

Action2 ひろげよう「あいさつ」の輪

- ・ あいさつは家族・社会の一員としての第一歩です。
- ・ おはよう」から一日をスタートしましょう。

Action3 家族で「話そう」

- ・ 明るい家庭は、ふだんの家族の会話から。
- ・ たくさん話して、しっかり聞きましょう。
- ・ 一緒に運動をしたり活動をしたりする中で会話を楽しみましょう。
- ・ 親子で一緒に「家読」をしてみましょう。

Action4 「早寝早起き朝ごはん」国民運動

- ・ 規則正しい生活は子どもの健やかな成長の基本です。
- ・ しっかり食べて、生活リズムを整えましょう。
- ・ 子どもの睡眠時間を確保しましょう。

Action5 我が家の「ノーメディアデー」

- ・ メディア機器の使い方の約束を決めましょう。
- ・ ノーメディアデーを決めてチャレンジしてみましょう。
- ・ 持たせることに親は責任をもちましょう。
- ・ 持ったら子どもも自己責任をもちましょう。
- ・ 親もスマホを置く勇気をもちましょう。

令和2年度 地域でつながる家庭教育推進事業
家庭教育応援プロジェクト（県中版）
～学校・家庭・地域が連携して家庭教育を推進～
「コミュニケーション！」
～『家族で』『地域で』『学校で』～

県中教育事務所主催「地域家庭教育推進県中ブロック会議」では、平成23年度より「県中地域家庭教育推進協議会」（県教委主催）と連携を図りながら、県中地区の家庭教育に関する現状や課題について協議し、家庭の教育力・子育て力の向上のための手立て等について検討して参りました。

これまでの会議から、子どもたちが健やかに成長していくために必要不可欠である基本的な生活習慣を向上させるためには「コミュニケーション」がキーワードではないかと考えました。

「家庭の中のコミュニケーション」「地域の中でのコミュニケーション」「学校の中でのコミュニケーション」「子ども同士、大人と子どもの、そして大人同士のコミュニケーション」について親子、家庭・地域・学校それぞれができることに取り組んでいくことが子どもたちの健やかな成長につながるのではないかと考えます。

子どもたちの未来のために、できることから取り組んでみませんか。

【家族参加でコミュニケーション！】
地域家庭教育県中ブロック会議からの提案
『我が家のアクション』できることから取り組もう！

Action1 子どもをほめよう！自分をほめよう！
ほめることは大事な子育てツールです。たくさんほめてあげましょう。そして、がんばる自分もほめてあげましょう。ありがたいの気持ちを言葉で伝えましょう。

Action2 ひろげよう「あいさつ」の輪
あいさつは家族・社会の一員としての第一歩です。『おはよう』から一日をスタートしましょう。

Action3 家族で「話そう」
明るい家庭は、ふだんの家族の会話から。たくさん話して、しっかり聞きましょう。一緒に運動をしたり活動をしたりする中で会話を楽しみましょう。

Action4 「早寝早起き朝ごはん」国民運動
規則正しい生活は、子どもの健やかな成長の基本です。しっかりと食べて、生活リズムを整えましょう。子どもの睡眠時間を確保しましょう。

Action5 我が家の「ノーメディアデー」
メディア機器の使い方の約束を決めましょう。ノーメディアデーを決めてチャレンジしてみましょう。持たせることに親は責任をもちましょう。持ったら子どもも自己責任をもちましょう。親もスマホを置く勇気を持ちましょう。

地域家庭教育推進県中ブロック会議

令和2年度地域でつながる家庭教育推進事業 家庭教育応援プロジェクト（県中版）
「コミュニケーション！」『家族で』『地域で』『学校で』

家族で話し合い、1年間取り
組むことを決めてみませんか。
5つの【Action】を参
照し、右側の『我が家のアク
ション』に記入してみましょう。

Action: 『我が家のアクション』できることから取り組もう！

【Action1】子どもをほめよう！自分をほめよう！
○ できたことを認めてあげてください。ほめてあげよう。
○ がんばっているのを褒めよう。自分もたくさんほめてあげよう。
○ 「ありがとう」の感謝の気持ちも伝えよう。

【Action2】ひろげよう「あいさつ」の輪
○ 全国で、朝まで、晩まで、笑顔で「おはよう」をしよう。
○ あいさつで一日をスタートしよう。

【Action3】家族で「話そう」
○ 毎日、少しでも毎日の会話を増やそう。
○ 話を聞くときはしっかりと話を聞かせるよう。
○ 親子で一緒に「家読」をしよう。

【Action4】「早寝早起き朝ごはん」国民運動
○ 朝ごはんを一緒に食べよう。
○ 朝ごはんの準備をしよう。
○ 朝ごはんを一緒に食べよう。
○ 子どもの睡眠時間を確保しよう。
○ 寝る前には「おやすみ」をしよう。
○ 成長ホルモンは、寝る1時間前にも分泌する。睡眠後7～8時間あたりで分泌がピークです。

【Action5】我が家の「ノーメディアデー」
○ 平日の1日、もしくは、メディア機器の使い方を決めよう。
○ ノーメディアデーを決めてチャレンジしてみよう。
○ 持たせることに親は責任をもちましょう。
○ 持ったら子どもも自己責任をもちましょう。
○ 親もスマホを置く勇気を持ちましょう。

毎月第3日曜日は「家庭の日」

◎ 今後の取組について

- 今年度も「家庭教育応援プロジェクト（県中版）」「我が家のアクション」を学校、PTA 家庭教育応援推進活動登録企業へ配付して家庭教育の推進を図っていく。
- 11月28日（土）の県中域内家庭教育支援者育成研修会に可能な方はぜひ参加し研修を積んでいただきたい。
- 域内の企業に「家庭教育応援企業推進事業」について啓発をし、登録を呼びかける。
- 各推進委員それぞれの立場で県中の課題を解決できるよう実践、支援していく。
- 10月23日（金）に情報交換会を行い、その場で中間報告ができるようにする。
- 1月22日（金）に第2回の県中ブロック会議を行い、今年度の各自の取組について発表を行う。
- 「親子の学び応援講座」にも参観可能な推進委員はぜひ出席していただきたい。
 - ・ 「おやこでいっしょにリトミック」
9月10日（木）：須賀川立長沼幼稚園